

課題名：森林環境教育への取り組み - 問題点の解消に向けて -

所属・氏名：釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター 自然再生指導官 齋藤 克則

1 はじめに - 釧路湿原森林環境保全ふれあいセンターの活動区域 -

釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター（以下「ふれあいセンター」という。）は図 - 1 で示すとおり北海道の東部に位置する、釧路根室森林計画区の根釧西部森林管理署管轄の国有林のうち釧路湿原上流域の国有林を主な活動区域としています。



水色で示した部分が釧路湿原でそれを取り囲むように緑色で示す活動区域の国有林があります。これをみると活動区域の国有林が釧路湿原の水源として重要な役割を持っていることが解ります。市町村でみると弟子屈町、標茶町、鶴居村、釧路町、厚岸町、釧路市のうち旧阿寒町の国有林です。

2 . 課題を取り上げた背景

ふれあいセンターでは森林環境教育に積極的に取り組んでおり、平成 17 年度から活動区域内の小中学校校長会を通じてふれあいセンターのPRを行っています。その活動の中で、各学校に対してアンケートを行い「森林環境教育を実施するときの問題点」を把握しました。問題点として上げられたのは、指導者がいない フィールドがない 適切な指導書がない の3点でした。森林環境教育を推進するためには、これらの問題点を解消するための活動が必要と考えられました。

また、これまで森林環境教育を行って様々な先生と交流する中で、各学校が森林環境教育に積極的に取り組むためには、先生が使い易いプログラム（活動計画案）が必要となっていることがわかりました。

3 . 取組の経過

(1) 森林環境教育の推進

平成 18 年度は、アンケートで抽出した問題点の解消に重点を置いて森林環境教育を進めることにしました。各問題点への対応策は以下のとおりです。

問題点 1：指導者がいない

学校に出向いて教職員の研修会を実施

教職員を対象とした「森林ふれあい講座」の実施

問題点 2：フィールドがない

校庭内の樹木の活用

国有林の活用及びPR

問題点 3：適切な指導書がない

ポケットガイドのリニューアル

指導者用パワーポイントの作成

(2) 森林環境教育検討会の開催

学校の先生を中心とした森林環境教育検討会を開催し、先生が使い易いプログラム(活動計画案)を作成することにしました。

4 . 実行結果

(1) 森林環境教育の推進

今年度は、釧路市を中心に近隣の小中学校等に対して延べ18回855名を対象に出前森林教室等を実施しました。その内訳は小中学校が9校で14回、教職員対象が2回、1NPOとの連携が2回となっています。

NO	日付	学校名	学年	人数	備 考
1	5/19	川添小学校	5,6年	19	支庁、森づくりセンターと連携
2	6/1	和琴小学校	全校	28	支庁、森づくりセンターと連携
3	6/4	釧路市子ども遊学館	一般	11	ファンクラブ行事(NPOへの支援)
4	6/26	柏木小学校	教員	14	教職員研修(17年度実施)
5	6/30	日達小学校	3年	33	3年生1クラス
6	8/3	森林ふれあい講座	教員	7	教職員募集(7名参加)
7	9/1	中蓬生劉小中学校	全校	23	学校林行事と併せて自然再生予定地見学
8	9/2	釧路市子ども遊学館	一般	9	ファンクラブ行事(NPOへの支援)
9	9/6	朝陽小学校	1年	36	1年生1クラス
10	9/13	光陽小学校	3年	55	3年2クラス、1回目(3回予定)
11	9/21	知方学小学校	全校	18	全校生徒(17年度実施)
12	9/22	光陽小学校	3年	55	3年2クラス、2回目
13	9/27	高知小中学校	5,6年	2	5,6年それぞれ1名
14	10/31	朝陽小学校	生徒会他	25	観察用樹木の植栽、樹木の名前
15	11/1	青陵中学校	1年	165	1年5クラス、1回目(3回予定)
16	11/9	青陵中学校	1年	165	1年5クラス、2回目
17	11/16	青陵中学校	1年	165	1年5クラス、3回目
18	11/24	光陽小学校	3年	26	3年生(総合・樹木希望者)3回目
				855	

表 - 1 平成18年度森林環境教育実施内容

(2) 問題点解消の活動事例

活動事例 - 1 (「指導者がいない」に対して)

問題点の中で一番回答が多かった「指導者がいない。」これに対しては学校へふれあいセンター職員が出向き教職員の研修会を実施しました。

放課後に座学(写真 - 1)で地球温暖化の話をしてその後、学校の周辺で樹木観察と、測樹(写真 - 2)を実施しました。

先生たちは、樹木について知らないことばかりで、子どもたちにもぜひ、教えていきたいと、熱心にメモをとっていました。



写真 - 1



写真 - 2

活動事例 - 2 (「指導者がいない」に対して)

写真3～6はパイロットフォレストで実施した教職員対象の「森林ふれあい講座」の様子です。今年度、新たな取り組みとして、校長会で案内を出したところ様々な市町から7名の参加希望がありました。

実施内容はパワーポイントを使用した森林・林業の講義、その後、除伐体験、炭焼き体験、遊歩道の散策をし、約1日様々な体験をしてもらいました。参加した先生たちから、子どもたちに自然とふれあいながら、このような体験を是非、やらせたいという意見が出ていました。



写真 - 3



写真 - 4



写真 - 5



写真 - 6

活動事例 - 3 (「フィールドがない」に対して)

これまでも、各学校の校庭を利用した森林教室を実施してきましたが、今年度は釧路市内の小中それぞれ一校ずつを対象に、「総合学習」の授業として、樹木観察や樹名板の作製・設置(写真 - 7)、測樹(写真 - 8)などを3日間に分けて実施しました。

小学校では、2月に総合学習の発表会も予定しており、森林や樹木に関する色々な質問がふれあいセンターに来ております。また、中学校では、地球温暖化についての勉強と併せて、測樹による樹木の炭素固定量の算出などを行いました。

今後も、学校単位で継続した取り組みを年間通して実施したいと考えています。



写真 - 7



写真 - 8

活動事例 - 4 (「フィールドがない」に対して)

今年度は釧路市の教育施設「釧路市こども遊学館」を運営しているNPOこども遊学館市民ステージと連携をして、子どもからお年寄りまで様々な人に国有林に来てもらい、ミズナラの巨樹周辺で植樹体験(写真 - 9)をしたり、パイロットフォレスト内で除伐体験(写真 - 10)や炭焼き体験を行い、国有林とふれあってもらいました。



写真 - 9

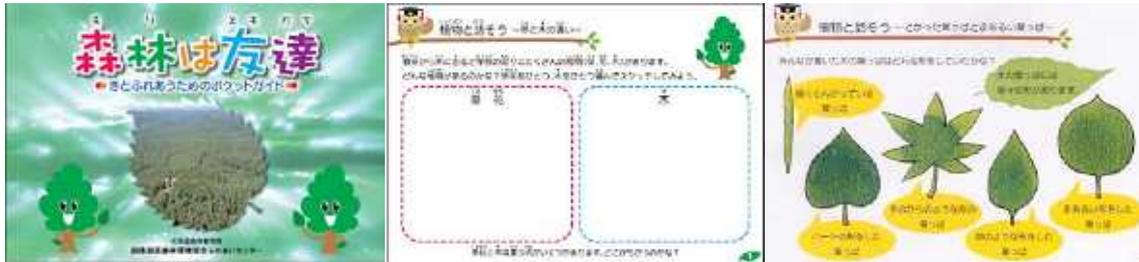


写真 - 10

活動事例 - 5 (「適切な指導書がない」に対して)

平成16年度にふれあいセンターが作成した生徒用のポケットガイドを低学年用、高学年用の2つに内容を分けてリニューアルをしました。

低学年用は、生活科の授業で使ってもらうことを考えて、草・花、木をそれぞれ観察、葉の形を調べるなど、直接、木とふれて感じる事が出来るように工夫しました。



(「低学年用ポケットガイド」リニューアル版)

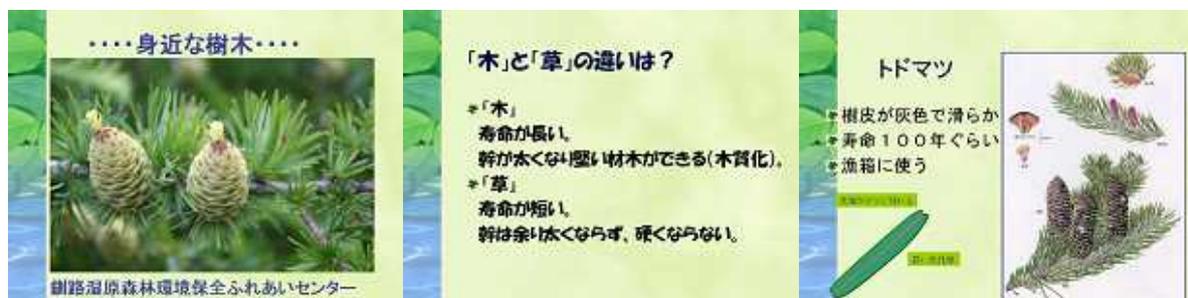
高学年用は、「総合学習」で使ってもらうことを考えました。総合学習は、自分で調べる、ということが大きなテーマとなっており、地球温暖化や炭素固定(光合成)について興味を持ってもらえる内容となっています。



(「高学年用ポケットガイド」リニューアル版)

活動事例 - 6 (「適切な指導書がない」に対して)

ふれあいセンターでは森林環境教育用のパワーポイントを作成し活用しています。このパワーポイントは木と草の違いや、それぞれの学校にある樹木をメインに木の種類などについて説明し、対象者により内容を変更しながら活用しています。



(森林環境教育用パワーポイント)

(2) 森林環境教育についての検討会の開催

これまで説明したふれあいセンターの活動とあわせて今年度、森林環境教育の検討会(写真-11)を開催しています。

検討委員は、北海道教育大釧路校の先生や釧路市元教育長、釧路市子ども遊学館館長、更に学校の先生が作っている教科ごとの教育研究会からそれぞれメンバーを出していただ

き8名で検討を行っています。

この検討会では、「地球温暖化防止と森林の役割」を題材にして10時間程度の総合学習のための活動計画案をとりまとめることを目標としています。また、この活動計画案のねらいは、地球温暖化を通じて自分たちの生活を見直すことや森林の役割について気づき、その上で自分たちの生活と森林の関係を理解し、森林の大切さを改めて感じ、森林を守り、育てる態度を養う、というものです。



写真 - 1 1

検討結果については、活動計画案を本検討会の報告書としてとりまとめ、市町村の教育委員会を通じて校長会で紹介する予定です。

5. 考 察

今年度は延べ18回855名に対して森林環境教育等を実施しましたが、このうち国有林を活用したものは3回29名にとどまっています。

来年度はこれまでの活動を継続するとともに、森林環境教育検討会において、当センターが行っている自然再生活動の事業地やパイロットフォレストなどの国有林を森林環境教育の場としてこれまで以上に活用するための検討・PRを行うつもりです。